

土門 剛

土門 剛 どもん たけし

【プロフィール】

1947年大阪市生まれ。早稲田大学大学院法学研究科中退。農業や農協問題について規制緩和と国際化の視点からの論文を多数執筆している。主な著書に、『農協が倒産する日』（東洋経済新報社）、『穀物メジャー』（共著／家の光協会）、『東京をどうする、日本をどうする』（通産省八幡和男氏と共著／講談社）、『新食糧法で日本のお米はこう変わる』（東洋経済新報社）などがある。大阪府米穀小売商業組合、「明日の米穀店を考える研究会」各委員を歴任。会員制のFAX情報誌も発行している。



んばりに、「そうだったのか！」という明快な解説をお願いしたいと思えます。まずはシンガポールでの閣僚会合での「年内合意」が吹き飛んだ事情から説明してもらえませんか。

土門 緒戦の交渉で大失敗をやらしたということかな。新聞はそう書いていないけど、とにかく交渉権限も持っていないかった相手に決め手のカードを切ってしまったことは悔やまれる。交渉に当たった政治家たちには、交渉は失敗だったという自覚を最低限持って欲しいな。この先の交渉は、思いやられるぞ。

日本側の目論見はずれた「鬼(米議会)の居め間」作戦

質問 米国政府が交渉権限も持っていないかったとは初耳ですね。

土門 議会のお墨付きがなかったことだ。三権分立がハッキリしている米国では、TPPのような国益をかけた通商交渉の権限は、議会が握るのが憲法の決まり。だから大統領は、議会から交渉権限を与えられて交渉に当たるわけだ。一方の議会は、大統領が締結した通商協定をスムーズに批准させるが、もちろん大統領に勝手な交渉をさせないように目を光らすことにもなっている。それを法制化したものが、「大統領貿易促進

権限(TPA)法」であり、実は、この法律は07年に失効していた。

質問 ということは、オバマ大統領は権限もなく通商交渉していたということになりますね。

土門 ハイ、そういうことでした。日本側は「年内合意」とはしゃいでいたが、TPAがなければただの練習試合みたいなもので、自分の実力を試す場であったり、相手の出方を研究するための場だったりするわけだ。こっちは本試合だと思ってる本気で戦ったのに、あっちはTPA法による交渉権限が付与されておらず、仮に合意しても議会から「ノー」を突きつけられることもあるので、合意する気持ちがハナからなかったのではないかな。議会に「ノー」と言われたら、それこそ交渉相手に面子丸つぶれだからね。

質問 「年内合意」の舞台になるはずだった13年12月のシンガポールでの閣僚会合間に、甘利明経済再生大臣がドタキャンしたのは、練習試合だと通告されたからですか？

土門 いやいや、甘利さんがガミングアウトしたように、「初期の舌ガシ」治療のための入院は間違いないとしても、そのタイミングで閣僚会合のキャンセルはないと思うよ。閣僚会合に先立ち訪日したマイケル・フロマン米通商代表が、事前交渉で

今年の干支は、午。ウマに引っかけ、「物事がウマくいく」、「幸運が駆け込んでくる」という運勢占いがあれば、相場の世界では、「午尻下がり」というのがありまして、午年は景気が下向きになる事もあるとか。やはり気になるのは、4月の消費税増税でしょうか。5%から8%への税率アップで消費が冷えなければいいのですが。何しろ長期にわたるデフレの影響があります。少しでもモノが値上がりしたら、財布のひ

もをギュッと締めてしまいがちの個人消費の動向が気になるところです。

それでは新春恒例、今年の農業界を展望してみたいと思います。

質問 2013年は環太平洋戦略的経済連携協定(TPP)交渉、農地問題、減反見直し、農協改革とビッグな話題ばかりでした。その中で新聞報道ではいまひとつ実態がつかめないTPP交渉について、池上彰さ

TPP交渉参加国の国民にも情報を遮断する、秘密のベールの理由

■TPPを巡る主な日米交渉の推移 (2013年)

2月22日	日米首脳会談(ワシントン)で共同声明
3月15日	TPP交渉への参加を正式表明
4月12日	日本のTPP交渉参加を巡る米国の事前協議が決着
4月24日	米政府が日本のTPP交渉参加を米議会に通知
7月23日	日本がTPP交渉に正式参加
8月7~9日	TPP交渉と並行して行う日米協議の初会合主催(東京)
8月20日	甘利経済再生相とフロマン通商代表の会談(ブルネイ)
8月22~23日	TPP閣僚会合(ブルネイ) 首席交渉官による会合も24~30日に開催
10月1日~8日	インドネシア・バリでTPP首脳会合とTPP閣僚会合。 首脳会合にはオバマ大統領欠席。(APECも同時開催)
11月19~24日	TPP首席交渉官会合(米国・ソルトレークシティ)
12月2日	甘利経済再生相とフロマン通商代表の会談(東京)
12月5日	甘利経済再生相、シンガポールでの閣僚会合に欠席表明
12月7~10日	TPP閣僚会合(シンガポール)、年内合意できず

※「貿易促進権限(TPA)」の法案の内容について、大筋で合意した。
※次回交渉は、スイス・ダボスにて2014年2月に開催予定

「ごめん、ごめん、練習試合でした」と通告したから、「1cmも譲れない」と本気で勝負をかけていた甘利さんがずっこけてしまったのかな。

質問 オバマ大統領が13年10月のインドネシア・バリ島でのTPP首脳会合にドタキャンしたのも練習試合だからエースの登板は必要なしと判断したのでしょうか？

土門 あれは、財政の壁問題で議会との対応に忙殺されていたようだ。首脳会合といっても、所詮は議会で交渉権限をもらっていないので、ドタキャンしても実害はないと判断したかもしれないね。その首脳会合が「年内合意」にこぎ着けられるよ

うな状況にあったら、財政の壁問題は議会に一時休戦を申し出て、バリ島に行くこともできたはずだよ。

質問 TPPA法のことを日本側交渉団は知らなかったのでしょうか？

土門 そんなことはないと思うよ。外務省から07年に失効していて、そういう状況で仮に妥結しても、議会で批准されないことぐらいは外務省から説明を受けて知っていたと思う。ただ当時は、オバマ大統領もTPA法に対してはやや消極的な態度だったので、日本側は鬼(米議会)の居ぬ間の洗濯とばかりに、オバマ大統領と話をつければ、有利な条件でTPP交渉を「年内合意」でまとめられると思っ込んでしまったようだな。それと下衆の勘ぐりだけど、米国が投げた、誘い玉で相手の出方を探る作戦、というのに、まんまと引つかかったという説もあるかも。試合巧者の米国は、相手が本試合でどんな決め球を投げてくるか、見極めるために投げた誘い球に、日本側がフルスウィングで空振りをしてしまったという解説はどうかかな。

質問 それで、「自分から(譲歩のため)パンツを脱いでしまった」というわけですか？

土門 全中専務から参院議員に転じた山田俊男さんが、TPP首脳会合と閣僚会合が開かれたバリ島での日

本側の対応を批判したときの発言だな。自民党の西川公也TPP委員長が、いきなり重要農産品5分野のうちのいくつかは「関税撤廃できるかどうか検討する」と妥協案のようなものを明らかにしたこと山田さんが激怒して口にしたセリフが、それだよ。TPA法はこの春にも米議会を通過するという報道もある。つまり、本試合のプレー・ボールとなるわけだが、米国は日本側が本試合で使う決め球を分かってしまったので、本試合ではその攻略法を研究し尽くして臨んでくるはずだ。米国の手の込んだ情報戦に日本側はしてやられなければいけないね。

質問 本試合のプレー・ボールは、いつでしょうか？

土門 議会でTPA法が通過して、グラウンド整備が終わる今年11月の中間選挙以降かな。それまでは大きな交渉の進展はないと思う。

質問 日本の新聞がTPA法について本格的に書き始めたのは、練習試合が終わってからのようでしたね。

土門 実に、鋭い指摘だ。TPA法のことをきちんと認識していたかどうか、TPP交渉の流れを客観的につかむ大きなポイントになる。(社)

日本機械工業連合会(日機連)は、早くからTPA法について現地駐在スタッフが収集した情報を会員企業

に流していた。それも安倍晋三首相が13年2月22日のオバマ大統領との日米首脳会談で交渉参加を表明するタイミングに合わせて、会員向けの『米通商関連情報』42号(13年2月21日発信)で、「オバマ政権は現在、ファストトラック権限(TPA)なしでTPP協議に参加しているが、最終的なTPP合意には議会のファストトラックでの批准が必要となるのはほぼ間違いない」と情報提供していた。そして、最も重要な指摘は、その時点では「日本が年内TPP参加を目指すかどうかは米政権には分からないため、今の時点で議会に対してファストトラック権限を要請し、日本との通商問題についての議論に議会を巻き込む理由はない、とホワイトハウスは判断しているようだ」という点だ。逆読みすれば、日本が正式に参加したら、オバマ政権はいずれ議会にTPA権限を要請すると分析していた。日本の新聞がようやくこのことに気がついたのは、「年内合意」がこけてしまったシンガポールでの閣僚会合以降のことだよ。

質問 日本農業新聞も早かったみたいですね。

土門 確かにね。13年3月9日付けの「TPP交渉で政府分析 米大統領に決定権なし 議会 修正で締結

困難」という記事で、「オバマ米大統領がTPAを取得できないと、TPP交渉で協定をまとめても議会が修正を要求し、再交渉を迫られる可能性が高いことを認めた内容だ」と報じていた。TPA法が議会を通過してしまつたら、そのロジックは通用しなくなるぞ。このあたりが、反対のための反対ということで作り上げたロジックの限界かな。

交渉で孤立深める日米両国

質問 秘密のベールを被ったTPP交渉を、あのウイキリークスが暴露してくれましたね。シンガポールでの閣僚会合の最中の13年12月9日にネットで公開した「第二弾、秘密文書『TPP文書』を暴く」という文書は信用に足るものですか？

土門 もちろんだよ。だからこそ、ウイキリークスを立ち上げた豪州国籍のジュリアン・アサンジをお尋ね者にしてロンドンのエクアドル大使館に幽閉しているのだよ。その「TPP文書」も、信頼に足るものと思うよ。第一弾で超機密扱いの「知的財産に関する草案」そのものをすっ飛ばしていた。ソルトレイクシティの閣僚会合で参加国に配布されたも

のをウイキリークスがTPP交渉参加国の政府関係者から入手したようだ。ご存知かと思うが、草案のようなものは、参加国でも閲覧できる関係者は限られている。それがウイキリークスに流出するというのは、TPP交渉を進めたい勢力にとつては嫌な予感があるのではないかな。それはともかく、この資料は、今後のTPP交渉を占う上で第一級の価値があると思つたよ。第二弾のTPP文書は、ソルトレイクシティでの閣僚会合が開かれた13年11月時点で、14の交渉分野の88論点（記載があつたのは87論点）について、参加12カ国がどのような態度を示したか、「合意」「反対」「保留」に分けて星取り表のようにしたもので、見方を変えれば政府の発表や新聞のTPP報道がいかにデタラメかを検証する格好の資料でもある。

質問 「年内合意」と力んでいた日本は、どういう態度でしたか。

土門 これが意外なことにも、87論点のうち、29も「反対」だった。そして「保留」は24。「合意」は34だった。ソルトレイクシティからシンガポールの閣僚会合までたったの11日間しかなかったから、その短期間で「保留」はともかく、「反対」を「合意」にひっくり返すには、よほどの荒技を使わない限り実現不可能だ。知的

財産に至っては、19論点中、記載のあつた18で「合意」は、たったの1だ。11が「反対」で、「保留」は6。ちなみに農産物の関税撤廃などが含まれる市場アクセスでは、12論点中、「合意」3、「反対」4、「保留」5だった。

質問 TPP交渉をリードする米国の交渉ポジションは？

土門 さすが言い出しつぺらしく、「合意」は59もあるが、「反対」も25あり、「保留」は2だった。もちろん「合意」の割合は、参加12カ国中、ダントツのトップだ。得意分野の「知的財産」は19論点（記載は18論点）中、「合意」は14もあった。「反対」11、「保留」6という具合だった。ちなみに全体で「合意」がもっとも少なく、「反対」が最も多いのは、予想通りイスラム教国のマレーシアで、それに次ぐのが国営企業の改革を求められているベトナムだ。ウイキリークスの

文書で、ぜひ紹介しておきたい記述がある。例の星取り表を総括して、ジョージ・ワシントン大学のヘンリー・ファレル助教授が、「最も重要と考えられるのは、米国と日本がTPP交渉のテーブルで相対的に孤立していることである。米国はTPPを意のままにできないということかもしれない」と指摘した点だ。

質問 交渉で「日米が相対的に孤立」と書いていますね。

というのは、日本の新聞と真逆のことを書いていますね。

土門 13年10月3日付け産経新聞は、バリ島での首脳会合にオバマ大統領が欠席したことを引き合いに出して、「TPP交渉仲介役の日本、存在感じわり 米大統領欠席の可能性浮上」という署名入り記事を掲載していた。ウイキリークスの文書を読めば、仮に日本に「存在感」があるとしたら、口では対米追従路線を唱えながら、実際の交渉では米国提案に「反対」を多く表明したスタンスに各国が強い疑念を抱いたという点ではなからうか。TPPを主導する米国は、交渉を重ねるごとに「孤立」を深めているのが実態らしい。マレーシアのマハティール元首相は、シンガポールでの閣僚会合の直前、NHKのインタビューに応じ、「時に自分たちの価値観を押しつけようとするが、受け入れられない」とTPP交渉を主導する米国を手厳しく批判した。TPP交渉の本質は、

多国籍企業の利益は国家主権に優るといふ傲慢さにある。それがあつたらこそ、交渉参加国の国民にも情報を遮断しようとしているのだと思う。ウイキリークスの文書は、TPP交渉の本質部分に光を当てようとしているように思えてならない。

質問 ありがとうございました。